

ミニオーラル (eポスター) | 肺循環・肺高血圧・呼吸器疾患 2

2026年7月9日(木) 15:40 ~ 16:40 | ミニオーラル会場 3 (Conference Hall C)

[P18] ミニオーラル (eポスター) 18 (I-P18)

肺循環・肺高血圧・呼吸器疾患 2

座長:早瀬 康信(徳島大学病院 小児科地域小児科診療部)

座長:高橋 邦彦(市立豊中病院 小児科)

[I-P18-03] 単心室症例の TCPC 適応判断に対する肺生検所見の位置づけ

○神谷 寛登, 松沢 拓弥, 田中 啓輔, 小森 悠矢, 和田 直樹 (榊原記念財団附属 榊原記念病院 小児心臓血管外科)

キーワード: TCPC、Fontan手術、肺生検

【背景】TCPCの成否には肺血管評価が重要だが、肺生検による評価の報告は少ない。【目的】TCPC適応判断目的で肺生検を施行した症例を解析し、肺生検の臨床的意義を検討する。【方法】当院でTCPC適応判断目的に肺生検を施行した9症例・18回を後方視的に検討した。生検所見に基づくTCPC適応判断と臨床経過を整理し、病理学的にTCPC適応または非適応と判断された生検の間でカテーテル検査所見を比較した。【結果】生検時年齢中央値は5.0歳 (IQR 4.0, 7.0)。TCPC適応6/9例、非適応3/9例であった。適応6例中、半数以上のpreacinar pulmonary arteryに中膜肥厚を認めない4例と、intra-acinar pulmonary arteryの中膜肥厚が改善した1例はTCPC後経過良好で、うち3例は複数回生検で所見改善が確認できた。残る1例はTCPC適応であったがfailed Fontanとなった。非適応3例はいずれもpreacinar pulmonary arteryに中膜肥厚を認めた。1例はTCPC時の生検結果が非適応であった症例、1例は1年後のカテーテル検査にてTCPCを施行した症例であり、いずれも術後問題なく経過している。残る1例はTCPC術中にtake-downとなり、同時に肺生検を施行、その後も複数回生検で所見改善乏しく、現在までTCPCに至っていない。TCPC適応と判断された肺生検7回と、非適応と判断された11回でカテーテル検査所見を比較したが、PAI、平均肺動脈圧、肺血管抵抗のいずれも有意差を認めなかった。【考察】肺生検所見とカテーテル指標に明確な関連はなく、病理判定と臨床経過の対応も一様でないことから、TCPC適応判断におけるルーチンでの肺生検の意義は限定的である。一方、複数回生検で肺動脈所見が改善傾向を示した3例はTCPCを施行し得ており、カテーテルのみでTCPCの適応判断が困難な症例において、生検所見の変化が補助指標となる可能性がある。【結論】肺動脈の経時的変化はTCPC適応判断の補助的評価指標となる可能性がある。